

# 「安心して感染 したい!」より

新型コロナウイルスの感染拡大が止まらない。全国の感染者数は、延べ3万4806人(7月30日時点)に上り、死亡者数も1000人を超えた。感染者が周囲からの非難や嫌がらせに直面するケースも相次いでいる。

佐賀新聞「ひとは7月15日、感染者やその家族が特定されたり、中傷されたりするケースがあると



「安心して感染したい」では、住人たちが次々と感染を恐れる発言をする。そのいずれもがコロナウイルスそのものを恐れているというよりは、周囲の目を恐れている発言ばかりだ。

「狭い町で噂になるから一人目の感染者にだけは絶対になりたくないわ〜」

「感染したって分かったらこの町ん中ですぐに村八分にされんぞ〜」

「周りから陰口叩かれてこの町に住めなくなる」

「作者である見附市公式レポーターの村上徹(むらかみとおる)さんは、「周囲の人たちからこうした言葉を聞いてモヤモヤしていた」と話す。

「モヤモヤを形にしようと思っ、とりあえず漫画を描き始めたんです。その過程で自分も人の目を気にしていること、わざわざ口に出さなくても同じようなことを思っているところがあると気が付きました。コロナウイルスについては治療法もまだなく、やっぱりみんな怖いんですよね。みんなが感染のリスクに晒されて怖い思いをしていると

きに、お互いに傷つけ合ったり、いじめにつながるようなことを言うのはやめたいと思いました。そういう自分の気持ちをそのまま漫画にしたいんです。」

こうしたい思いを込め、漫画の最後には「誰もが感染する可能性がある中で、こんな声を聞くと『噂するの村八分にすの後も後ろ指さすの陰口を叩くのもウイルスじゃない。この、「ひと」なんだよなあ』と、思う。見附人として互いを想い合う温かい『ひと』でありたいと願う」と綴った。

「正直、市内で感染者が出たら『誰なんだろう』『近所じゃないといいな』と思ってしまうと思います。でもそれを口にしたらいじめにつながってしまう。誰が感染しても誹謗中傷しないような空気にしたいです。」

この漫画は大きな反響を呼び、コメントは100件近く、シェアは160件以上に上っている。隣接する三条市に在住する男性は、「三条にも(感染者が)出ました。御多分に漏れ

ず『誰だ!』『何処の人』など詮索の多い事!」とコメント。岐阜県に住んでいるという女性も「本当に怖いのは病気でなく、地域にウイルスを持ち込んだという犯罪者扱いです」と共感を寄せた。

こうした書き込みからは、感染者が地域で後ろ指を指される現状が透けて見える。しかし感染しないように注意を払っていても、いつ誰が感染してもおかしくないのがコロナウイルスだ。感染者を責めても仕方がない。

見附市役所でFacebookを管理する担当者は、「市では、三密を避ける、新しい生活様式を実践するといった感染症対策を実施しています。そのおかげで、まだ市内で感染者が出ていません。だからこそ多くの人は、一人目の感染者になってしまっているのではないかと不安に思っているようです」と話す。

漫画については、「見附市で生活する人同士、温かい気持ちで感染者をいたわり、見守れるようになりたいと思った」と共感を寄せた。

## 人権感覚磨く

新型コロナウイルスは、私たちに色々な事を教えてくれます。学ばせてくれます。命の尊厳。免疫力をあげる。基本的な生活習慣の重要性。働き方改革や学び方改革。子育てのこと。家族の絆。考えて行動すること。人間としての価値観や幸福感。これまで当たり前であったことが当たり前でなくなつた今、新しい発想と創造で行動することが求められます。

学校では、このコロナを通して命の大切さや、真の人権感覚を磨くことを積極的に推進しようと考えています。SNS上での誹謗中傷からコロナを介しての誹謗中傷が感染拡大しています。

小林市(須木地区)でもいつ感染が拡大してもおかしくない状況です。その時こそが真の人間力を発揮できるのか試される時です。頭の中で理解していること、想像していることが現実に行動として起こせる準備を整えておきたいものです。

# 須木中通信

## 中総体開催!

### 力を発揮した選手たち!



心配された西諸地区中学校総合体育大会でしたが、関係者の皆様方の努力とご協力により入場制限等を行いながら無事に開催されました。須木中学校からも剣道部とソフトテニス部が出場いたしました。普段の練習も色々な制限を受けながらでしたが、顧問の熱心で適切な指導により大会をベストに近いコンディションで迎えることができました。三年生にとっては、最後の大会と力や感謝を胸に大会に臨みました。ソフトテニス会場、剣道会場共に熱気に包まれて熱戦を展開しました。対戦相手に応じた戦術が見事でもあり、必死に考えながら応戦している姿に成長を感じました。



これまでの送迎をはじめとするご支援に心より感謝申し上げます。形は違えど必死に力を発揮した夏は記憶に残る最高の大会になったと思います。

**サマースクール**

短くなつた特別な夏休み!そんな中、三日間の特別なサマースクールを実施しました。特に、初日の七月三十日は、教育プランナーの羽田野祥子さんをお招きしてのキャリア教育に

関係する授業を企画しました。二十一世紀型資質が求められる昨今、徹底したコミュニケーションスキルも重要です。生徒たちが苦手とするコミュニケーションスキルを身に付けるための講話とワークショップを行いました。私が印象に残っているフレーズは、「コミュニケーションは、タイムミングや相手、その場面によって変化する」という事。日常にある多様な場面を観察することでトレーニングできるそうです。感じたこと、思った事、考えたこと、知

たいことなどを工夫してアウトプット機会を増やすことで身につけることができそうです。

**親子奉仕作業**

「ご協力ありがとうございました」

七月二十九日、暑い中でしたが夕方より奉仕作業を行いました。たくさんの方の保護者の皆様のご協力により、運動場をはじめとする校内環境が整いました。生徒たちも決められた場所を綺麗にする作業を通して心も新鮮にリフレッシュできたと思います。日頃から末次先生が草刈りや芝刈りをし

てくださいます。実際にやってみると、それぞれの仕事の大変さや価値が理解できます。自分たちで綺麗にするという気持ちです。次回は、十月四日(日)の予定です。ご協力お願いします。

**豊かな表現力**

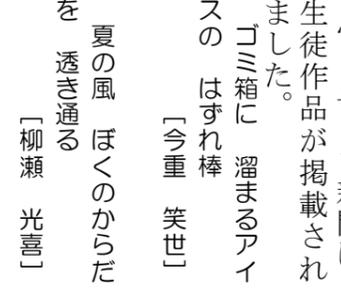
宮日子ども新聞に、生徒作品が掲載されました。

ゴミ箱に溜まるアイヌのはずれ棒

「今重 笑世」

夏の風 ほくのからだを 透き通る

「柳瀬 光喜」



# 宮日「若い目」 MRT 私たちの作文

生徒たちの表現力に磨きがかかり、多様なマスメディアで取り上げていただく機会が増えています。このことはたいへん嬉しい事であり、生徒たちの自信にも繋がります。今後も機会あるごとに感性を磨き、色々な表現活動に挑戦して欲しいと考えます。

生きられなかった赤ちゃんの話でした。私はこのお話を聞いて、胸が締めつけられるような思いでいました。その赤ちゃんはとても小さいのに、頑張つて生きようとしていたんだというのを感じました。私は、こうして元気に生きてこられたけど、

それは当たり前前のことじゃないんだと改めて気づかされました。私もまわりの人たちもみんな、かけがえのない命をもっています。だから殺人なんて絶対したらいけないと思うし、人を死まで追い詰めるようなことをしてはいけないと思います。これから、自分の命を大切に、自分が今ここに生きていられることへの感謝を忘れないようにしていきたいと思えます。

「我が家の牛」  
富永 幸輝  
僕の家には、牛が八頭います。親牛が四頭、仔牛が四頭です。それぞれに名前がついていて、とても可愛い牛たちです。親牛の名前は、「リズム」「モモコ」「ミハコ」「コマキ」です。仔牛の名前は、「ミノリ」「コヒメ」「コウフク」「サチオ」です。ほとんど名前を僕が付けました。

# 確かな学力・豊かな心・健康な生活 かながら児童をもち、やがて見えてくる未来

## 須木中学校区の教育目標

「命を大切に感謝」  
假屋 くるみ

この間、命の講演会がありました。外部講師の方に来ていただき、命の尊さを学ぶ事ができました。

そのお話を、講師の方が実際に経験されたことで、生まれつきの病気をもっていて長く

八月六日  
八月九日  
八月十五日

牛たちの顔を見ればどの牛が誰なのか、ほとんど分かりません。僕は、毎日の餌やりや肥だしなどの世話をしています。親牛の餌はイタリアンや牧草を切つてサイロと藁をコンテナに入れます。仔牛の餌は、イタリアンと牧草を切つてコンテナにいっぱい入れます。それを八個つくりまわす。牛たちに餌をあげると「ムシヤムシヤ」と美味しそうに食べてくれます。僕は、美味しそうに餌を食べてくれる牛の顔を見るのが大好きで嬉しくなります。

今年特別な夏！  
広島、長崎の原爆投下、終戦から75年！

「本当の平和とは」  
深谷中学校 榎 優衣

「わたしはもう助かりません。もう、だめ。だからあなたは、どうして逃げてちょうだい。」この言葉は、私にとって

忘れることのできない一言になりました。今でもこの言葉を思い出すと、心を何かで突き刺されたような感覚になります。私は、広島に原爆が落とされたときの体験が綴られた「わたしがちいさかったときに」という本の中で、この言葉に出会いました。

機会を与えてくれました。私たちの故郷、深谷市にも反戦平和を望んだ方がいました。渋沢栄一翁です。彼は、日米関係が悪化するなか、争いを鎮めようと四回にわたつて渡米しました。排日運動が起こる中で、未来を担う日米の子供たちに親善の輪を広げようと、人形を交換する活動を行ったのです。栄一翁は生前、「また必要があれば、自分は棺を船に乗せて再び渡つて参ります。」といきつたのだそうです。国どうしが対立しているなかで、友好関係を築くことは、そう簡単にはありません。日本だけを見つめるのではなく、世界を見つめ、平和を次の世代に引き継ごうとして、苦難を承知で活動を続けた栄一翁を私は誇りに思います。

原爆によつて家が壊れ、妻が倒れた柱に足を挟まれてしまいました。夫は必死に助けようとしませんが、火の手はどんどん迫ってきます。妻は「子供のために逃げなさい」と夫を諭しました。号泣しながら夫は、妻の元を離れていきます。振り返ると家はすべて火の海に飲み込まれていました。子供を助けるために妻を火の海に残して逃げる、そんな決断を強いられるとき、人はどのような気持ちになるのでしょうか。苦しみ、悲しみ、怒り…

私を知っているどの言葉でも、その気持ちを言い表すことはできません。被爆体験をした子供たちが、思い出すのもつらい、そんな気持ちを持ちながら書き残してくれた話を読みながら、今私たちが過ごしている日々がいかに平和で幸せなのかを知らずして、きつとこの子供たちも、今私たちが過ごしているような、戦争のない平和な世の中で暮らすことを望んでいたはずです。



須木中学校に赴任して五ヶ月が過ぎようとしています。この五ヶ月間、色々な事を感じてきました。生徒たちが素直で純朴であること、学校が落ち着いていること、先生たちが真剣であること、保護者が協力的であること、学校が小規模で機動力があること、何でも挑戦しやすい環境であること…など、可能性を感じる事が山ほどある学校です。ただ、やり方が分からなくて躊躇したり、行動できなかつたりしていることもありますが、八月二十五日から一学期の後半がスタートしました。生徒たちには、積極的に挑戦して、たくさん失敗して成長して欲しいと願っています。挑戦しなければ、成長はありませんが、成長も望みません。自分の考えを主張し、小さな一歩を踏み出して欲しいと願っています。

「可能性を秘めた須木中学校！」  
鶴澤美枝子  
須木中学校に赴任して五ヶ月が過ぎようとしています。この五ヶ月間、色々な事を感じてきました。生徒たちが素直で純朴であること、学校が落ち着いていること、先生たちが真剣であること、保護者が協力的であること、学校が小規模で機動力があること、何でも挑戦しやすい環境であること…など、可能性を感じる事が山ほどある学校です。ただ、やり方が分からなくて躊躇したり、行動できなかつたりしていることもありますが、八月二十五日から一学期の後半がスタートしました。生徒たちには、積極的に挑戦して、たくさん失敗して成長して欲しいと願っています。挑戦しなければ、成長はありませんが、成長も望みません。自分の考えを主張し、小さな一歩を踏み出して欲しいと願っています。



鶴澤美枝子  
鶴澤さん来校

「鶴澤美枝子」  
世界五十カ国の国歌を歌うソプラノ歌手。十五歳の時にマリア・カラスの歌声に出会い、以降五十年間ただひたすらに歌の練習。練習量、特に「君が代」において世界で一番練習をした人と自負。六十歳のとき全てを置いて（仕事も教室も止め）ただひたすら歌い歩く歌バカ人生に突入。

### ホームページ

須木中学校のホームページを、竹之内教頭先生が定期的に更新されています。学校行事や生徒たちの様子を発信するためのホームページです。是非、学校のことに関心をもつていただき閲覧をお願いいたします。



## 9月の主な行事！

- 1日(火) 防災教育(1年)
- 1日(火) 学力診断テスト(3年)
- 2日(水) 学力診断テスト(3年)
- 3日(木) 避難訓練(地震)
- 4日(金) 読み聞かせ(1・2年)
- 8日(火) 生徒集会
- 10日(木) 職場体験学習(2年)
- 10日(木) 手話授業(3年)
- 11日(金) 職場体験学習(2年)
- 15日(火) 1学期末テスト
- 15日(火) 鶴澤美枝子さん講演会
- 16日(水) 1学期末テスト
- 17日(木) 1学期末テスト
- 24日(木) 中体連出場選手推戴式
- 24日(木) 全校集会
- 25日(金) 地区英語暗唱弁論大会
- 26日(土) 地区中体連秋季大会
- 27日(日) 地区中体連秋季大会
- 28日(火) 全校専門委員会
- 30日(水) 生徒会役員演説・選挙
- 30日(水) 島根県海士町立海士中学校とオンライン交流授業(3年)